



ビハーラ山陰

第7号【令和2年10月1日】

発行元
事務局

浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

このたびの7月豪雨災害、台風9号・10号で被災された皆さま、
新型コロナウイルスで大変な状況にある皆さまに、こころからお見舞い申し上げます。

「ビハーラ活動の願い」に触れ



山陰教区教務所
所長 佐々木 了慎

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、感染者もお亡くなりになる方々も増え続け、社会経済状況は先行き不透明で、閉塞感が漂う未曾有の事態が生じております。被害を受けられた方々に謹んでお悔やみ・お見舞い申し上げますとともに、現場の最前線で懸命に対応されている皆様に、深く敬意と感謝を表します。

さて、本宗門の「ビハーラ活動の理念」の中に、次のような一節があります。「死の前に、患者と家族が死についてどう考え、人への愛情、自らの人生の意味をどう考えているかを傾聴し、無常を超えて真実のつながりを育み、深い安らぎを得ることを『ビハーラ活動』の願いとします。また人は愛するものとの別離を通して、多くのことに気づきます。その意味で、死別後、残された人々がもつ悲しみに共感し、亡き人との思い出を新しい人生の道しるべとして、ともに学んでいくところにもその願いがあります。」

私事ですが、昨年9月に父が亡くなりました。2年間に亘る闘病生活の末、最期の数日間には緩和ケア病棟に入院しました。父は亡くなる直前に、

思うように動かせなくなった手で、いくつかの短い言葉を書き残していました。

まずは病院のスタッフやお世話になっている方々への感謝の言葉。次にどこに痛みがあるのか伝える言葉。そして最後に「大きな船に乗っている」という言葉でした。

親鸞聖人は『高僧和讃』の中で、「生死の苦海ほとりなし ひさしくしづめるわれらをば 弥陀弘誓のふねのみぞ のせてかならずわたしける」とお示しであります。お念仏のみ教えに出遇えた父は、ご本願の船に乗せていただいている安心感に包まれながら、感謝の中で亡くなりました。父の最期の言葉から、阿弥陀如来の救いのみ教えの中で生かされている尊さ、有り難さ、そして念仏者としていかに人の苦悩に寄り添い、手を取り合って考え、助け合って生きていくのか、改めて教えられたことでもあります。

山陰教区には、110名を超えるビハーラ山陰の会員がおられます。日頃の積極的な学びと実践に心から敬意を表しますとともに、「ビハーラ活動の理念」に謳われる「み仏に願われ護られたいのちの尊さに気づき、孤立した人々の心と心をつなぐ活動」の更なる充実発展に向け、ともに歩みを進めるべく、何卒よろしくお見舞い申し上げます。



新役員紹介コーナー

大田西組 法久寺 特留宣裕

ビハーラの根幹は、「傾聴」にあると思います。自分の思いや考えを他人に押し付けず、人には中々言えない苦悩を抱え辛い思いをしておられる方に寄り添い、親身になって聞き、共に寄り添い、歩いていくことが真の念仏者の生き方ではなからうかなと思います。

浜田組 光西寺 廣崎勝美

2011(平成23)年ビハーラ山陰再発足時に入会させていただき、以後目的達成のため数々の事業に参加させていただきました。私の所属しておりますビハーラ浜田は順調に推移しておりますが、今年度に入り新型コロナの影響で全ての訪問活動が中止となり、苦慮しており一日も早い終息を望んでおります。今後もビハーラ活動の5つの方向性に基づいて、活動を続けていきたいと思っております。

聞く力の大切さ

鳥取因幡組 浄宗寺 片上優子

人が2人いれば、私にも「聞いてもらいたい」と思うものがあるように、相手も必ず「聞いてほしい」と思っているはず。しかし、自分の思いがうまく伝えられるだけでなく、相手の話を黙って聞いてあげることやその話を受け止めてあげることがどれほど難しいことか。この力は日々の積み重ねの中で作られていくものですが、時間を重ねればいいというものではなく、「自分自身の意識」と「わかってくれる人達の存在」が必要不可欠なのだと思います。本当に周りの人達の『お育て』があつてのことなのですね。

神門組 眞宗寺 堀西雅亮

堀西と申します。感染症にかかった人の居場所を奪う、自分の考えに合わない人を「間違い」だとする、自分の宗教だけを大切にする、そのタネは何か。自分の中に探していくほかはないですね。よろしくお祈りいたします。

出雲南組 善徳寺 楠智加子

ビハーラ活動の大切さを知りながらも、実際には何もできていない私です。活動を通してしっかりと学び、ビハーラのやさしさの輪を広げていくお手伝いできればと思っております。どうぞよろしくお祈り致します。

邑智東組 高善寺 武田正文

最近、YouTubeで活動を始めました。「死別の悲しみ」「自らの生老病死」など、ビハーラに直結するテーマの人気の高いです。不安定な時代に差し掛かる今こそビハーラが大切になってくると思っております。

益田組 専光寺 朽畠宏樹

本堂でのお勤めの帰り丁寧にトイレの前で合掌をする父は、数年前病気で目が不自由になりました。お内仏と間違えているのですがその姿に頭が下がります。寄り添う気持ちを大切に活動に取り組んでいきたいと思っております。

■ビハーラ山陰役員名簿

任期:2020年4月1日~2022年3月31日

役職	組名	寺院名	氏名
会長	江津	西教寺	三谷卓良
副会長	大田西	法久寺	特留宣裕
//	浜田	光西寺	廣崎勝美
理事	鳥取因幡	浄宗寺	片上優子
//	神門	眞宗寺	堀西雅亮
//	出雲南	善徳寺	楠智加子
//	邑智東	高善寺	武田正文
//	益田	専光寺	朽畠宏樹
監事	出雲	宗玄寺	上田 覚
//	飯南	福蔵坊	高橋浩文
顧問	浜田	真行寺	渡邊哲彦
//	出雲	宗玄寺	藤森観海
//		(教務所長)	佐々木 了慎
事務局		(教務所)	黒河敬生

編集後記

3月に入り新型コロナウイルスの影響によって行事が中止となる中、機関誌の発行も危ぶまれましたが、役員の皆様のご尽力により、ここにビハーラ山陰第7号をお届けすることができました。謹んでお礼申し上げます。いま、世の中は、働き方や生活様式が大きく変わりつつあります。また、人権意識の軽視や経済の落ち込みによる生活への影響が社会問題化しています。人々の苦悩に寄り添うことがビハーラ活動であるならば、このような不安定な時代だからこそ、仏教徒としてどう向き合うべきか、その姿勢が問われているような気がします。(事務局)